

## 瀬戸内海しまなみ海道の住民意識調査

日本大学大学院 学生会員 清水くみこ

日本大学大学院 学生会員 高橋直大

日本大学理工学部 フェロー 竹澤三雄

## 1. まえがき

広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶしまなみ街道が開通して4年目を向かえた。この瀬戸内海の架橋によって尾道市と今治市の発展は言うまでもなく、今まで離島であった架橋地点の島々の住民の意識がどのように変わったかを調査することによって離島問題の方向が明らかになる。本研究は、そのような観点から、しまなみ街道における島々の住民にアンケート調査を行い、今後の島々の問題点について検討したものである。

## 2. 研究の方法

しまなみ海道のうち、大三島（大三島町・上浦町）伯方島（伯方町）大島（宮窪町・吉海町）を選び、下記に示すような内容についてハガキ郵送回答方式によってアンケート調査を行った。なお、これらの調査は2002年8月から9月にかけて実施した。

漁港・漁村に関するアンケート 該当する項目に○をして下さい

性別（男 女）住所（市町村）年齢（歳）

職業（漁業 農業 自営 会社員 その他）

- (1) 今後もこの島に住みたいと思いますか（YES NO）
- (2) 現在の生活に満足していますか（YES NO）
- (3) 後継者はいますか（YES NO）
- (4) 家族の助力を必要としていますか（YES NO）
- (5) 若者は帰ってくると思いますか（YES NO）
- (6) この島で老後を過ごしたいと言う人がいたら受け入れますか（YES NO [理由]）
- (7) 昔より今の方がよくなりましたか（YES NO）
- (8) もっと活気ある島にしたいですか（YES NO）
- (9) 周辺の自然環境はどうか（良い 普通 悪い）
- (10) 周辺の人間関係はどうか（良い 普通 悪い）
- (11) 福祉施設や教育施設は充実していますか（良い 普通 悪い）
- (12) しまなみ海道ができて良かったと思いますか（YES NO）

## 3. 結果と考察

(1)、(2)、(5)、(6)、(11)、(12) についての結果と考察は次の通りである。

(1) 今後もこの島に住みたいと思いますか？に対する回答は60歳以上の人はYES100%、20代の方は64%がYES、36%がNOであった。

(2) 現在の生活に満足していますか？に対する回答では20代と80歳以上の人は約半分の人がNOで、他の

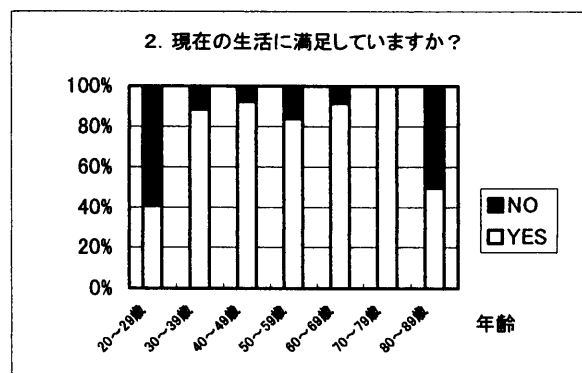
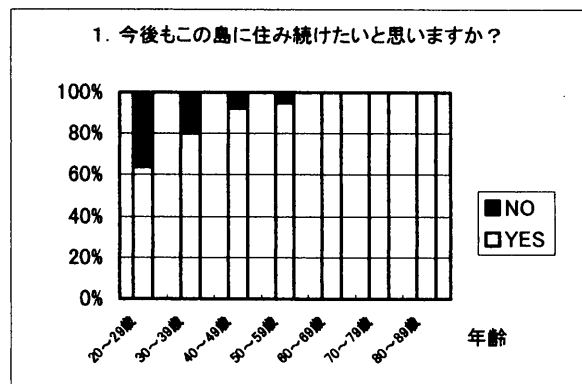
キーワード：しまなみ海道・離島・アンケート

連絡先：東京都千代田区神田駿河台1-8

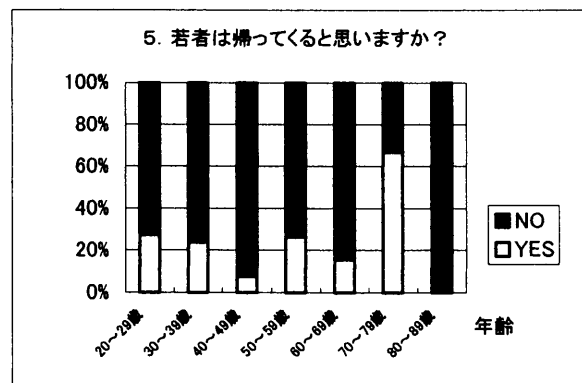
日本大学

理工学部土木工学科 TEL/FAX03-3259-0676

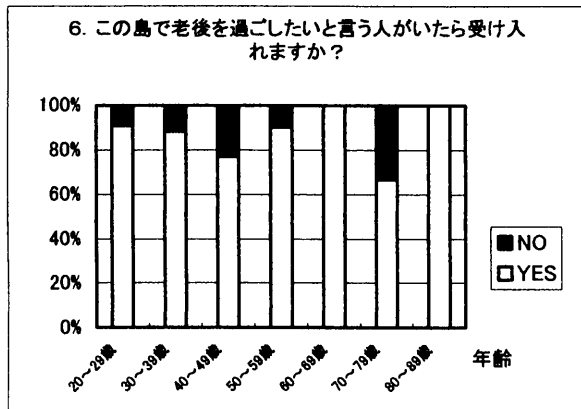
年代ではほとんどの人がYESであった。



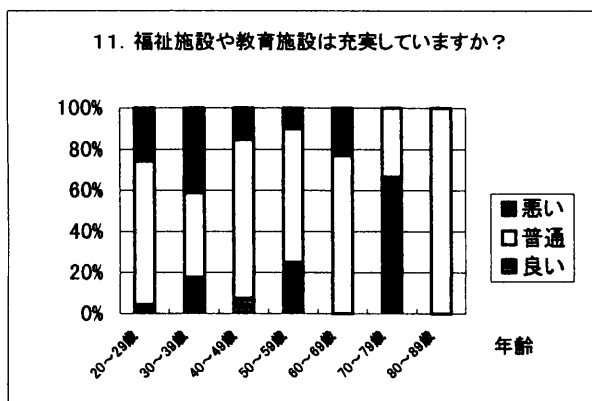
(5) 若者は帰ってくると思いますか？に対する回答では70代の方はかなり期待をもっているようであるが、他の年齢層の方はほとんど期待をしていないようである。



(6) この島で老後を過ごしたいと言う人がいたら受け入れますか？に対しては、いずれの年代の人もほとんどが YES と答えている。YES と答えた人の意見は次の通りである。「過疎化が進んでいるから」、「自然の島でゆったりと生活していただきたいから」、「老後だと静かで環境が良いので」、「人口増・伝統行事のため」、「自然環境が良いから」、「空気がきれいだから」、「伯方町でのんびり過ごして欲しいから」、「宮窪を知ってもらいたい」、「落ち着くから」など外部の人を歓迎する答が多い。

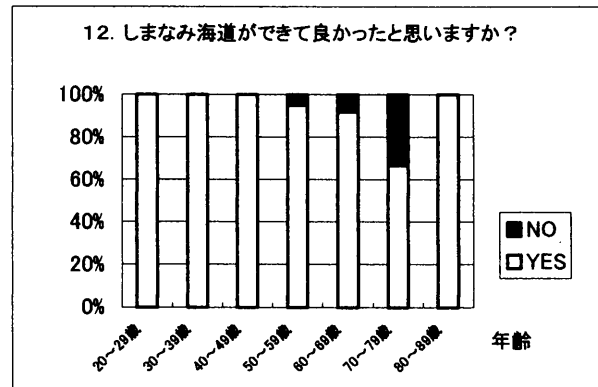


(11) 福祉施設や教育施設は充実していますか？に対しては、**良い**と答えている人は70代に多く、注目に値する結果であった。20～60代の人の中には**悪い**と答えている人がいる。とくに20代から30代の若者に不満が多く、**悪い**と答えた人の中には「図書館が欲しい」と書いている人がいた。



(12) しまなみ海道ができて良かったと思いますか？にたいしては、YES と回答した人が圧倒的に多いが、70代の人約30%がNOと回答している。その回答の中には「橋がかかって便利になったが、島の住民にとっ

て良いことではない」という意見であった。また、YES と答えている人の中には「しまなみ海道の交通料金が低い」という意見が多かった。



#### 4. 結び

アンケートを配布時に島の住民の意見によると、昔に比べて漁業で生活している人が少なくなり、しまなみ海道が開通したことで観光業に転職した人もいうことである。しかし、大島の漁業就業者は大三島・伯方島に比べて多い。大島の最盛期の海上作業従事者数は585人で、大三島(189人)、伯方島(135人)と比べて大変多い。しまなみ海道が開通したことによって隣の島から容易に魚介類が手に入るようになり、漁業で生活する人と観光業など漁業以外で生活する人に分かれ、島の生活形態が変わってきた。

わが国は6852の島々から成り立っている海洋島嶼国である。このうち有人島は約400で、約130万人がそこで生活している。離島の海岸線延長距離は約8000kmで、その沿岸におおくの漁村が点在している。21世紀は都市と地方の連携が必要になるといわれている。そういった意味からも、漁村はもう1つの都市としての役割を果たすべき時代である。とくに瀬戸内海は本州と四国に挟まれた海域で多くの離島があり、気候が温暖、風光明媚な所で、老後を暮らすには絶好の場所である。架橋が実現した瀬戸内海の島民の暮らしや考え方がどのように変わったかは興味のあるところである。その結果、第1次産業から第3次産業への転換が始まっている傾向が見られた。将来、都市部に住んでいる人が架橋地点の島に流入してくる可能性がある。そのためには、まず、島の福祉施設や教育施設を充実させ、島民の期待に応えられるような島造りをする必要がある。